

J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課

TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085



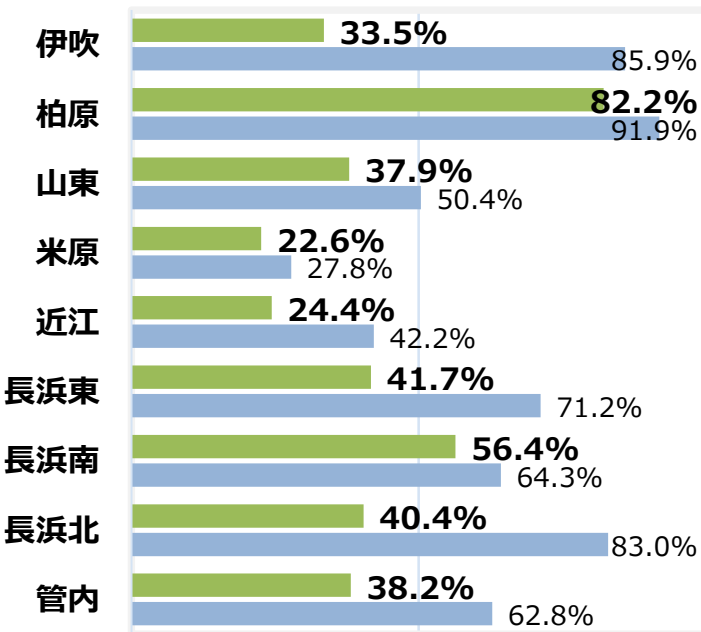
ご不明な点があれば携帯までご連絡ください

R5年産米コシヒカリの検査状況について(9/29現在)

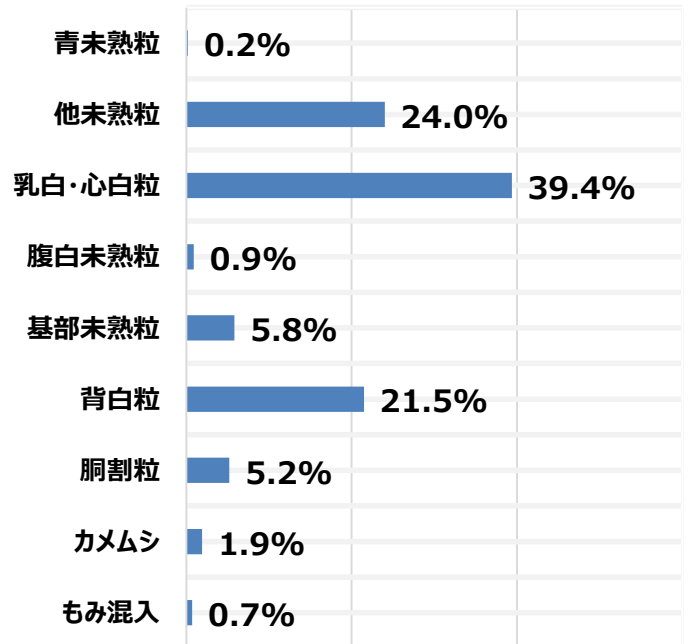
レーク伊吹管内のコシヒカリの一等米比率は38.2%で、前年の62.8%を下回りました。2等米以下の主な格付理由としては、白未熟が多く、要因としては記録的な猛暑による登熟期の高温が影響したと考えられます。

令和5年地域別地場コシヒカリ1等比率
(水田活用米穀除く)

■ 令和5年産 ■ 令和4年産



令和5年JA米コシヒカリ2等米以下の品質低下要因



白未熟粒とは

乳白や背白粒などの白未熟粒は、玄米の胚乳内におけるデンプン粒が蓄積不足となり、粒間に隙間が発生し、光が乱反射して白く見えるものです。



要因

- ・出穂後 20 日間の気温が高い。
- ・総籾数が多い。
- ・早期の落水。
- ・登熟期の日照が不足し、稲の栄養が不足する。

対策

- ・適正籾数確保に向けた適度な中干しを行う。
- ・出穂時の葉色確認をする。
- ・出穂以降こまめな入水による地温の低下を行う。
- ・常時湛水管理を欠かさない。
- ・遅植えによる登熟期の高温回避。

高品質米生産に向けての土づくりについて

近年、温暖化の影響等により地力が低下しています。（滋賀県の平均気温はここ100年間で約1.3℃上昇。）地力が低下すると収量や品質の低下に大きな影響を及ぼします。また、稲の生育期間が高温傾向で推移すると、乳白粒の発生要因の一因になります。そのため、土づくりを行って地力が向上することで、温暖化に負けない安定生産と品質向上につなげることが重要です。

土づくりのポイント

- ・深耕により作土深を15cm以上確保し根域の確保
- ・土づくり資材（田華の豊稲）の施用によるpH改善とケイ酸・リン酸の継続補給
- ・冬季乾田に向けた溝切りの再構築または、暗渠排水の有効利用



田華の豊稲施肥による3つのバランス効果

①アルカリ補給効果

- ・稲わら分解促進
- ・PHの上昇維持
- ・カドミウムの吸収抑制効果



②リン酸補給効果

- ・根の生育促進
- ・草型改善
- ・根量確保
- ・秋落ち軽減



③ケイ酸補給効果

- ・倒状軽減
- ・品質向上
- ・病虫害抑制

保証成分(%)

	リン酸	苦土	ケイ酸	アルカリ分
砂上	4	9	31	47
粒状	4	9	30	45



レーク伊吹管内の土壌ではケイ酸・ケイ酸が不足しています。

多年生雑草対策について

多年生雑草は刈取り後も生育を続け、地中で塊茎成し肥大させることで、翌年の発生源になります。このような雑草を減らすためには、収穫後の除草剤の散布に加え、秋耕を行いましょう。

対策

- ・耕起による物理的防除対策
- ・刈跡除草剤散布



ラウンドアップ
マックスロード

代表的な多年生雑草



オモダカ



クログワイ



塊茎



塊茎